

【青森県】

# 青森県立五所川原農林高等学校

## 6次産業研究室

高校生ボランティア・アワード2024



活動テーマ

### 青森♡シェアップル

～食育・共食活動に取り組む全国の高校生団体を応援しよう～

活動概要

#### (1) 基本活動

私たちは、農業の6次産業化を活用し、持続可能な農業高校フードバンクを継続運営しています。

私たちの学校では、果樹・野菜・作物という授業があり、地域特産のリンゴやトマト、コメなどを栽培しています。しかし、農産物を出荷する市場の基準に照らし合せてきたとき、**サイズや品質が出荷基準に合わないものが発生し、廃棄されてしまっています。**この農産物は出荷品と同じ管理をしているので、味はおいしいのですがもったいないです。

私たちの先輩は課題解決に向け、2021年から、**未利用資源の農産物(7～12月)を地域の「子ども食堂」に届ける活動**をはじめました。冬から春にかけて農産物が提供できないという課題は、小売店や地域農家から農産物を仕入れることで解決しました。地域加工会社の協力により、活動支援金確保に向けて**未利用資源の「リンゴ」を使った「五農の恵みリンゴジュース」**を開発し、販売したためです。

このほか、地域の子どもの食堂運営団体と連携し、運営ボランティアとして参画したり、本校を舞台にした食育活動を提供しています。

#### (2) 発展活動(本大会の発表)

私たちは**食育活動や共食活動を運営する全国の高校生団体と未利用リンゴをシェア**します。そして**全国の地域貢献活動を応援**していきます。

以前**高校生ボランティア・アワード2022**に参加した研究員が食育・共食活動に取り組む高校生の発表に感動したことを覚えています。そこで**高校生ボランティア・アワード2023**では**アイデアをポスターに掲載**、各ブースを回って利用を募り、秋に正式に本活動を興しました。



【私たちの志】

志高く、共食活動に取り組む全国の仲間を応援する！  
そして農業高校フードバンクの使命である  
**親子の笑顔**を全国各地で引き出したい！

#### (1) 日本の「見えない貧困」

日本の貧困問題は、明日食べるものがないという「絶対的な貧困」ではなく、生活や子育てにお金をかけることができない「相対的な貧困」です。厚生労働省は2023年、**日本の「子どもの貧困率」(17歳以下)を11.5%**と発表しました。つまり、**9人に1人がこの貧困状態にある**のです。

ここで起きる問題は、**栄養バランスを整った食事がとれないこと、豊かな体験の機会が不足すること**です。そこで私たちは地域の子どもの食堂「憩いの広場 ここまる」と連携し、未利用農産物の提供、子どもの食育体験活動の提供を3年連続実施しています。



#### (2) 農業高校フードバンクの強み

- ① 冷蔵倉庫を使用できる  
本県のフードバンクは有志団体が多く、**保管場所不足が課題**です。生鮮物の寄付を受け取れないケースがあります。そこで私たちは青森県の事業に参画し、**日本初の自治体が発起する農業高校フードバンクとして冷蔵倉庫で保管**することができます。
- ② 青森県最大規模のフードバンク中間支援組織として参画  
私たちは2023年、**青森県社会福祉協議会が運営するさくらりんごフードバンクに中間支援組織として参画**しました。これにより青森県津軽地域を広くカバーするフードバンクとして、あおりフードバンクが保管する支援物品を保管し、様々な団体に提供することが可能になりました。

### キーワード「食育・共食活動に取り組む高校生や団体と、青森りんごをシェアしよう」

#### (1) 「農業高校フードバンク」 青森県津軽地域の継続支援実績!

まずは、青森県津軽地域での活動を紹介します。**令和5年度から令和6年度(令和6年4月現在)**までの子ども食堂支援実績は**未利用農産物等137kg**、**食育・共食体験が491人に提供**となりました。特に食育・共食活動ではイネの田植え～刈り取り・棒がけ～おにぎり会まで取り組み、**産地から共食まで一貫した活動**を実施することができました。

表 地域に提供した農産物一覧(2023.4-24.4)

月	内容	提供量	仕入れ	利用者/備考
4	野菜	4kg	小売店	28名、R4は0kg
5	野菜	6kg	小売店	33名
6	野菜	10kg	小売店	50名、R4は0kg
7	野菜	23kg	地域農家	82名
8	野菜	15kg	本校	45名
9	リンゴ、野菜	10kg	本校、小売店	36名・支援物資有
10	コメ、野菜	11kg	本校、小売店	33名・支援物資有
11	コメ、野菜	18kg	本校、小売店	78名・支援物資有
12	リンゴ、野菜	16kg	本校、小売店	34名・支援物資有
2	リンゴ、野菜	14kg	本校、小売店	40名・支援物資有
3	野菜	6kg	小売店	32名
4	野菜	4kg	小売店	53名
総計 137kg、491名が利用 (2023.4-2024.4まで)				

#### (2) 新規支援「青森♡シェアップル」 全国の高校生団体の支援実績! 全国から届いた声を紹介!

次に、青森♡シェアップルの活動実績を紹介します。申込のあった高校生団体から希望日を聞き、その時期の旬にあたる**未利用リンゴを10kg詰めの数BOXに入れて発送**しました。

初年度利用実績は**未利用リンゴ50kg**です。

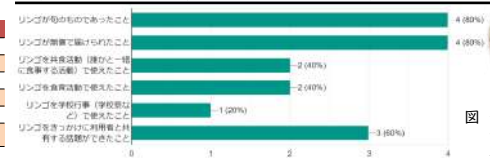
【利用団体】(敬称略・順不同)

- ・東京都 淑徳高等学校 社会福祉部
- ・埼玉県 埼玉栄高等学校 総合探究部
- ・長野県 松本秀峰中等教育学校 SVC (shuho\_volunteer\_club)
- ・岡山県 倉敷古城池高校 ワンツイビーカーズ Team Children's Cafeteria

農産物ロス削減にご協力感謝します!

#### アンケート調査結果

Q.今回のリンゴ提供で良かったと感じたことを教えてください。



Q.活動で印象的なエピソードがあったら教えてください。

- ★土曜日に子ども食堂で高校生主体のピザ会を開催しました。その時のデザートとして、**みんなにいただきました。大人も子どもも美味しい、美味しい**と言っていました。
- ◎高校生が**頑張っとうさぎリンゴに挑戦**しました。子ども食堂のスタッフさんに教えていただけてきました。子どもたちは、**かわいいと言ってとても喜んでくれました。**
- 子ども食堂を主催する方にりんごの配布を提案したところ**大喜びで、子どもたちも喜んでいました。**



図 全国の高校生ボランティア団体が青森♡シェアップルを活用した食育・共食活動の様子

【私たちの夢】

夢は**全国に子どもと親のたくさんの笑顔**を咲かせること!  
これからも**青森県農林水産部や青森県社会福祉協議会、大学、地域企業、子ども食堂と食育・共食体験、農産物支援**に取り組みます!

令和5年度は地域の子どもの食堂運営団体支援を継続しました。同時に**農村環境に悩みを抱える全国の高校生ボランティア団体をターゲット**にして、本県の課題である**農産物ロス削減**を同時に解決していくための活動を実践することができました。

#### 今後の課題は活動の継続です。

わたしたちの活動は現在自治体や地域団体、企業、農業経営者、小売店の協力により軌道に乗ってきたと思います。しかし、**現状に満足してはいけません**。活動後は振り返しを行い、今のような問題が地域で起きているのかを話し合うことで、新たな課題を見つけ、その解決に向けた取組に挑戦していきたいです。

**私たちは笑顔の花咲くふるさとを大きく育てたい**。だからこそ地域で生まれ育った子どもがその地域を愛し、永く生活したいと思えるような居場所づくりを支えたい。そして同じ思いをもって活動する全国の仲間たちを支えたいと話しています。私たちはこれからも、**授業で学んだ農業の持つ多面的な価値を活かし、農産物ロス削減と地域貢献活動を再興させていきます。**

【青森♡シェアップルを利用しませんか】  
誰かと**食事**を共にする**共食活動**に取り組む**高校生団体のみ**なさんの参加をお待ちしております!



私たちの学校で生まれた**未利用農産物(主にリンゴ)**を**子ども食堂や食育活動、学校祭などで利用しませんか?**  
申込はQRからどうぞ!

(締切 2024年 8月31日まで)

#### 集合写真



#### 青森県立五所川原農林高等学校 6次産業研究室プロフィール

本校は明治35年に北津軽郡立農学校として設立され、昭和23年に青森県立五所川原農林高等学校となった。昭和47年には、文部省よりA型自営者養成農業高校(現在は経営者養成農業高校と名称が変更)に指定され、昭和49年に大規模農業のスペシャリスト育成のために、現在の地に移転した。近年の成果では、2015年に本校の果樹園が「GLOBAL G.A.P. 認証」(農業に関する国際水準の認証制度)を日本の農業高校として初めて取得し、その取組が全国の農業高校に広がったことが挙げられる。全校生徒は約290名おり、生物生産科、環境土木科、森林科学科、食品科学科の4学科がある。6次産業研究室は生物生産科2・3年14名で研究活動に取り組んでいる。